

安全かつ効率的な国際物流の実現のための施策パッケージ概要

現状と課題

- ▶ 米国同時多発テロ以降の国際的な動向に的確に対応した物流セキュリティの強化が求められている。
- ▶ 一方、物流セキュリティ強化によって、円滑な物流を阻害することなく、物流効率化を一層進めることも重要である。

具体的な施策

1 物流セキュリティ等の強化

- ・ 物流セキュリティ関連情報の収集体制の整備
- ・ 船舶、港湾その他物流施設の保安措置の強化
- ・ 事業者別のコンプライアンス・ガイドラインの策定
- ・ 対米輸出円滑化に関するガイドラインの策定
- ・ 海上コンテナ陸上輸送に関する安全対策ガイドラインの策定

2 国際物流の効率化

- ・ スーパー中枢港湾プロジェクト等の推進
- ・ 3PL事業の支援等によるロジスティクス・ハブ機能の強化
- ・ 内航フィーダー輸送など国内ネットワークとの連携強化
- ・ FAL条約の締結とBPRの推進
- ・ 業務・システム最適化計画の策定

3 ITの活用

- ・ 総合的な電子化促進支援策の検討
- ・ 港湾物流情報プラットフォームの実現
- ・ ITを活用したコンテナ管理体制の確立に向けた実証実験の実施
- ・ 港湾施設の出入管理の徹底のためのノンストップゲートシステムの構築

4 国際社会との協調

- ・ 交通セキュリティ大臣会合の開催
- ・ IMO、WCO、UN/CEFACT等を通じた国際協調

政策目標・評価指標等

【輸出】

対米輸出の際のコンテナヤードへの搬入締切時刻を、一定の条件を備えたコンテナについては、2006年までに入港3日前から2日前に短縮

【輸入】

輸入者が迅速な引取を求めるコンテナ貨物については、十分なセキュリティ対策を実施した場合においても、入港からコンテナヤードを出ることが可能となるまでの時間を2007年までに24時間以下に短縮

チェック&レビュー

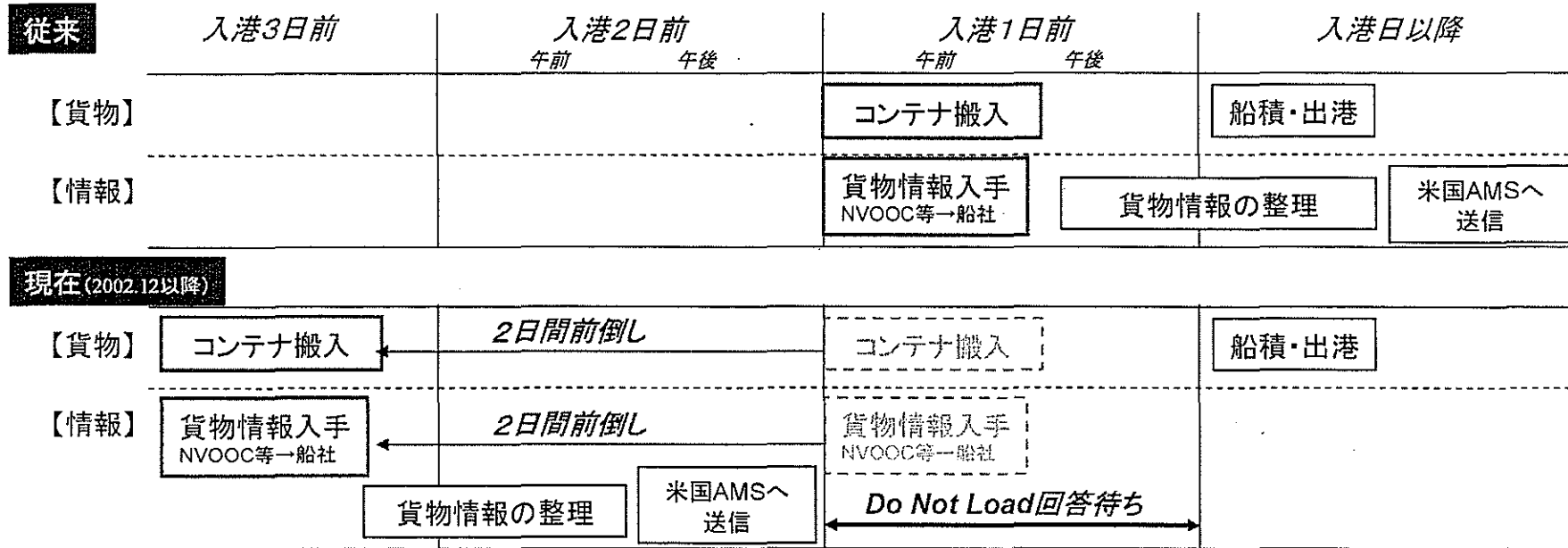
施策の推進体制

推進協議会の設置(2005年夏を目処に発足)

- ・ 進捗状況の点検・評価
- ・ 必要に応じ施策の見直し
- ・ 実務者による具体策の検討

検討事例：対米輸出コンテナ貨物のリードタイム

～コンテナターミナル (CY) への搬入期限



要望

荷主・NVOCC CYへの搬入は、従来通り入港1日前にして欲しい
荷主施設で輸出通関申告が可能となれば、CY搬入期限の延期につながる可能性ある

船社 貨物情報の整理にあたって変更作業が増加する恐れがあるため、コンテナ搬入と貨物情報の入手は同時が望ましい
貨物情報の整理時間の短縮、入力ミスの減少のため、貨物情報は電子的に入手したい

官民の協働により、一定の条件を備えたコンテナ貨物については、十分なセキュリティ対策を実施しつつ、CY搬入期限を短縮することを目指す方向で調整。